



2026年（令和8年）1月21日
公益社団法人日本ボクシング連盟
東京科学大学病院

日本ボクシング連盟と東京科学大学病院 「医療連携および研究事業連携に関する覚書」締結

公益社団法人日本ボクシング連盟（所在地：東京都新宿区、会長：仲間 達也）は、東京科学大学病院（所在地：東京都文京区、病院長：藤井 靖久）と、「医療連携および研究事業連携に関する覚書」を、2026年1月6日に締結いたしました。これに伴って、「医療連携および研究事業連携に関する覚書」締結に関する記者会見を、2026年1月21日に開催しました。本覚書は、ボクシング競技における選手の安全確保と競技環境の向上を目的として、医療支援体制の強化および脳震盪症例等を中心とした事故予防研究を共同で推進するものです。なお、覚書の有効期間は締結日から2026年3月31日までとし、期間満了の6か月前までに終了の意思表示がない場合、1年間自動延長されます。

（本覚書の有効期間は2026年3月31日までですが、次年度以降も協力関係を継続することで合意済みです。）

■ 覚書締結の背景と目的

ボクシング競技では、競技特性上、頭部外傷や脳震盪等が発生する可能性が高く、迅速かつ適切な医療対応が求められています。近年不幸な事故が複数件発生し、救急対応システム強化および安全性向上に対する取り組みの必要性が指摘されておりました。東京科学大学病院は総合医療機関として、救急医療・脳神経外科・整形外科などの専門科を有し、スポーツ医歯学診療センターを中心に、アスリート医科学研究を推進してきました。このたびの連携により、日本ボクシング連盟と東京科学大学病院が協力し、選手の安全性向上に資する医療体制の整備と、科学的根拠に基づいた競技の安全性向上に向けた研究活動をさらに深めてまいります。

■ 連携の主な内容

覚書に基づき、以下の医療連携および研究事業連携を実施します。具体的な施行開始時期は、国内で開催される日本ボクシング連盟の主催する全ての試合で、現在のところ2026年2月28日から開催される「2026年度ワールドボクシング各大会・第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋） 日本代表選考会（BOX OFF）」からの予定です。

【1. 医療連携】

- ・日本ボクシング連盟の主催する試合等における事故発生時の救急診療
- ・脳震盪症例等に対する外来診療の受け入れ
- ・リングサイドにおける医事活動への医師派遣・協力

【2. 研究事業連携】

- ・試合・練習における脳震盪等に関する疫学的研究
- ・脳震盪症例の動画解析・シミュレーション研究
- ・その他、事故予防に関連する研究の共同推進

【3. 相互の便宜供与】

- ・両者は、連携を円滑に進めるために必要な協力を相互に行います。

■ 本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人日本ボクシング連盟

160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘 4-2 Japan Sport Olympic Square 706

TEL : 03-03-6804-6751

E-mail : boxing@jabf.or.jp

東京科学大学病院

広報室

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

TEL : 03-5803-5097

E-mail : pr-hosp.adm@tmd.ac.jp